

おえかきだいすき



ねん くみ ()

ユミは、おえかきが だいすき。いえでは、いつでもえをかいています。

どうぶつ、たべもの、のりもの、なんだって かけます。かぞくは みんな、「ユミは、おえかきの てんさいだね。」と ほめてくれています。だから うれしくって、よけいに たくさん かいてしまうのです。

きょうも がっこうで、おえかきを していました。

すると、ともだちの サラちゃんが やってきました。

「ねえ、おにごっこ やるんだけど、ユミちゃんも いっしょに やらない？」

「やらない。わたし、えをかくから。」

「そう。ユミちゃんは、わたしたちのこと、きらいなの？」

びっくりして、ユミは サラの かおを みました。

「きらいじゃないよ。」

「だったら、どうして いっしょに あそばないの？ いっつも、おえかき ばかりして。てっきり、わたしたちのこと きらいなのかと おもった。」

「そんなことないよ。」

「きらいじゃないんだったら、あそびに いこうよ。」

サラちゃんは、ごういんに さそってきます。

たしかに、ユミは ぜんぜん みんなと あそんでいません。ユミは こころの なかで かんがえました。

「たまには あそんだほうが よいのだろうか。でも、おえかきも したいなあ——。」



ユミは、おえかきを するべきでしょうか。それとも、サラちゃんたちと そとで あそぶべきでしょうか。あなたのかんがえと りゆうを かきましよう。

.....

.....

はなしあって かんがえたことを かきましよう。

.....

.....